

平成29年度 第3回松崎地区駅前活性化協議会

日 時 平成29年6月28日(水)

19時00分～

場 所 中央公民館第2研修室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 協議会委員の事業・イベント等の参加の基本的な考え方について

(2) 旧Aコープの活用について

(3) 軽トラ市について

(4) その他

○防災関係の取組について

○瑞風まちあわせ停車の活性化の利用について

5. 閉 会

次回予定 平成 年 月 日 () : ~

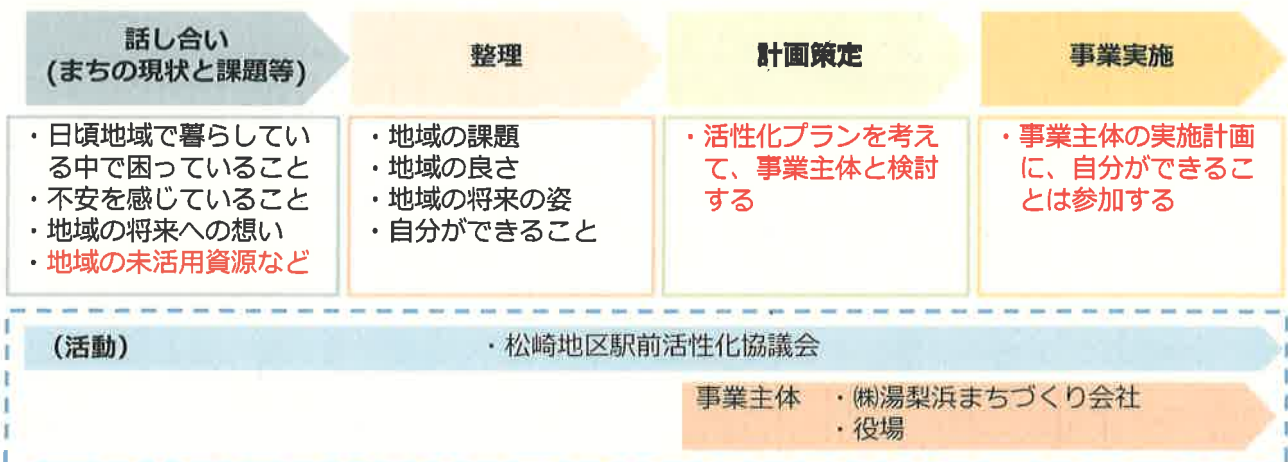
協議対象は松崎地区駅前の活性化計画ゾーン



- A 付近 : 旧Aコープを中心とするゾーン
 B 商店街 : 旭・松崎1～5区の商店街通りゾーン

松崎地区駅前活性化協議会の役割

(内容)



<全国的な事例>

まちの問題

まちの課題

まちの解決策と成果

<ul style="list-style-type: none"> ・住民生活の問題 空家増加 商店の閉鎖 公共交通の利便性の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活支援機能の確保 	「くらし」を支える生活サポートシステムの構築 ↓ 一人ひとりの地域への「愛着」や「誇り」の醸成
<ul style="list-style-type: none"> ・産業基盤の問題 働き口の減少 耕作放棄地の増大 農業等の後継者の不足 地域の行事等の担い手の減少 交流や生きがいづくりの場の消滅 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の振興 	「なりわい」を継承・創出する活動の育成 ↓ ・若い世代の定着 ・移住者の増加 ・新規事業 ・出生率の増加 ・住民意識の向上 ・団体間連携

旧Aコープ活用 (案)

※検討段階であり、確定ではありません

1. テーマ：交流、買い物、憩いの場
2. コンセプト：健康・美・元気
3. 交流人口の層

松崎周辺総人口 約1,500人

* (まつぎきこども園53、とうごうこども園110)

交流の層	交流人口	マルシェ	レストラン (食事)	カフェ (お茶)	男の憩いの場	卓球	子ども遊び場
時間帯		9:00 16:00	10:00 16:00	9:00 18:00		9:00 21:00	
高齢者	500	●	●	●			
一人暮らし	150	●					
買い物難民	100						
小学生	300						
子育て世代	170 *	●	●	●			●
卓球人	100					●	
男 (憩いの場)	50				●		
女 (おしゃべり)	100		●	●			
昼食ニーズ	100		●	●			
放課後子ども	150						●

4. 内容 (案)

1) コミュニティレストラン： (体にいい、手軽、飽きがこない、持ち帰りできる、、、)

①一汁一菜・・・日替わり「おにぎり+具たくさんスープ+つけもの」ランチ

・おにぎり (体に優しい玄米、五穀米、具材)

・スープ、味噌汁 (栄養が摂れる野菜中心、アゴ、しじみ、、、)

②カフェ・・・野菜ジュース系、お茶、パン、お菓子



2) マルシェ：(地元の野菜、効用、コンビニにはない、、、)

①お惣菜

(少量でも買える、その場で食べれる、持ち帰り出来る)

②生鮮食品 (地元、効用がある、生産者の顔がみえる、、、)

③湯梨浜特産品 (ここでしか買えない、、、)

④他、日用品 (他の事例参考)



3) 他

①卓球 (雨でも出来る、気軽、...)

- ・夕方、土日：スクール (卓球のレベルを高める)
- ・日中：遊び (リフレッシュ、親子)、健康体操 (運動不足解消、介護予防)

②屋内外イベント：軽トラ市、飲食イベント (日中・夜)

③大画面でのスポーツ観戦、カラオケ

④まちライブラリー

⑤足湯 (※要検討事項)



4. 利用予測

交流の層	マルシェ	レストラン (食事)	カフェ (お茶)	男の 憩いの場	卓球	子ども 遊び場
(1人単価)	@500円	@500円	@100円	@300円	@750円	
(頻度)	週2回	週1~2回	週1~2回	週1~2回	週3回	
(人数)	×250人 =500人	×1日30食	×1日30 人	×100人	×10人 =30人	

5. 課題

- 1) 継続性 (基盤事業)
- 2) 参画者 (住民、団体、事業者)
- 3) 屋内外空間づくり
 - ① 設計士未定
 - ② 畳スペース、土間スペース、
 - ③ 駐車場
- 4) 広報・宣伝

6. スケジュール (案)

※町のスケジュール要確認

- ①事業計画策定中
- ②設計：7月~9月
- ③竣工：10月~1月
- ④開設：1月、2月

例1) 全日食子エーン

■ 全日食子エーン加盟のメリット



加盟店から全日食子エーンへの加入を検討しています。
どんなメリットがありますか？

メリット 1

ムリの無い仕入れが可能に・・・

全日食子エーンセンターから「商品一括物流システム」で、欲しい商品・必要な数だけを週単位でご提供します。

メリット 2

ムラの無い在庫管理可能に・・・

在庫が空っぽになってしまう、売り切れが出てしまう、そんな在庫管理も「自動発注システム」で売れ行き管理も自動管理いたします。

メリット 3

ムダを削減し、人員コスト削減と店づくりに全力投球を・・・

メリット1、2から時間削減が可能になり、加盟店様にはよりよいお返づくりと販売に力を注いでいただき、売り上げ増加へ効果を発揮します。

■ はたマーカーケット(島根県雲南市)

廃校活用した交流センターにて波多コミュニティ協議会が運営する。

交流センターの職員、集落支援員、パートなどが運営に関わる。

※波多コミュニティ協議会

マーカーケット以外に、防災組織、無料送迎車、温泉、宿舍運営。

※加盟時に必要な費用

組合出資金は地区によって若干異なるが、1店舗加盟の場合、約160万円。

加盟後の費用は、「本部運営負担金・会費・RS費用・発注機器の使用料等」

が毎月必要。(波多の場合は寄付も募った)

1. 加盟～供給開始したその日から、早朝の仕入れも、買い出しも不要となります。

2. 仕入れの一本化により、手間と時間のコストを大幅に削減できます。

3. 青果・鮮魚・精肉や日配品、いずれもムダな仕入れがなくなります。

4. チエーン本部の一括仕入れで低価格を追求します。

5. 前日に、翌日の市場価格を電子メールやFAXでお知らせします。

6. 本部バイヤーが仕入れを行うので、加盟店は販売に全力投球できます。

7. 未経験でも、調理、陳列、売り方などの丁寧な指導を受けられます。

8. 納品時間が一定するので、パート、アルバイトのムダがなくなります。

9. 旬の情報をはじめ、年間の販売プロモーション情報を提供します。



例2) 団地スーパー立上げ (鳥取県米子市)



6月より運営開始。

小売店跡地に。交流サロンや食堂を新設し、高齢者のサロンや子どもの見守りなどの福祉機能を拡充させた。連合会で商品を買取り、商品を購入している。

団地スーパー移転閉店

食堂や交流スペース併設 福祉機能を拡充

・永江 秋子

鳥取県内最大規模の「子市」で住民がホラウ
住宅団地水俣団地来 来子市運営する小型ス



大勢の買い手までにあわせた「おえ義の店」なるものの開店。15日、米子市永江

「スーパー」受渡の店が
がえしが15日、即開
全部の小売跡に移転
オープンした。交流サ
スペースや食堂を新設
し、高齢者サロンや子
どもの見守りなど福祉
機能を拡充した。

同店は地区内の小売
店撤退を受け、水俣
区自治連合会が201
3年にオープン。手狭
になったため、日本出
産から300平方メートル
程度を、多量増築を
進めた。

新店は約80平方メ
ートルで、食堂の約2・3倍
に拡大。地域包括支援
センターと連携して部
知延子防犯隊や健康つ
くり水俣教室などを開
くほか、子どもが交際

に立ち寄れる場所とし
ても活用する。
オープン直前には約
100人が出席し、米
子市の伊木雄司市長が
「多世代が共存できる
まちづくりのモデルケ
ースにしたい」とあい
さし、同自治連合会の
総幹事長(長谷川)らが
テープカットでオープ
ンを祝った。



贈答品の贈呈をする山
本本部長(左)。15日、高
速道路の上野原の早立
連合会では、現場

主婦、永水摩子さん
(左)は「近くに駅があ
ると安心感がある」と
喜んだ。
幹事長は「幅広い
世代が安心して住める
地域をつくり、若い世
代の定着を目指す。子
ども食堂や親子で楽し
むイベントも開かれ
たい」と話している。
(前掲同)

県立短大が
技術学の研修会
開催
贈答品を活用し、交
渉安全意識の向上を促
す鳥取県交通安全協
会が「モーターサイ
クル・バイク・自
転車」など、交通安全
に関する講習会を開
いた。県内6つの警察署の
人

松崎自主防災だより



H29. 6. 27 発行

プロジェクト特集創刊号

松崎自主防災会プロジェクト事務局

会長挨拶

「私たちの町は、私たちが守ろう」。それが自主防災の目標です。しかし、防災と聞くと特別なことと身構えて敬遠したり、組織はあっても日々の活動が無いというのも事実です。

しかし、一番大切な事は、地域で生活する人々のコミュニケーションです。地域の行事・祭り・イベントに参加して誰もが顔見知りになって、あいさつや声かけ等出来るようになればと思います。それは、地域の活性化にもつながります。

この度、区長会や地域団体の支援を受けてプロジェクトを立ち上げ、「安全・安心な地域づくり」のための活動に取り組んで行きたいと思います。どうか、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

会長 伊藤敏雄

防災活動強化プロジェクト立上げ

立上げの経緯とプロジェクトの事業テーマ

平成 29 年 6 月 19 日、松崎自主防災会は役員会を開催し、昨年の鳥取県中部地震発生時の対応を踏まえ、松崎地区の防災活動を一層強化するため、プロジェクト事業計画を策定し松崎住民が一体となって防災活動に取り組むことを決定しました。

事業テーマとして当面、防災訓練、防災頭巾作り 55 プロジェクト、防災拠点整備検討、防災祭り開催検討の 4 事業を決定しました。（概要については下記を参照）

防災活動強化プロジェクトの概要

- ・プロジェクト期間：平成 29 年 6 月 19 日～平成 30 年 3 月 31 日
- ・プロジェクト実施テーマおよび事業概要：



事業推進については、自主防災会三役と事務局とで構成するプロジェクト事業推進会議により検討し、関係部署や関係団体に協力を得て、地域住民が一体となってプロジェクト事業を推進する。

事業テーマ	事業の概要（実施担当）	予定
防災訓練	・こども向け防災クイズ ・消火訓練,煙体験（羽合消防署・防災会担当） ・消防車試乗体験（公設消防第 7 分団）	H29.11.12(日)
防災頭巾作り 55 プロジェクト （園児用防災頭巾 制作・贈呈）	・防災頭巾作り運動チラシ作成・配布公募（事務局） ※公募対象：松崎地区住民、他 ・防災頭巾作りリーダー養成、教室の開催（各種団体等） ・防災頭巾贈呈式（H29.11.12 予定）（事務局）	H29/7～H29/11 贈呈先： まつざきこども園
防災拠点整備検討	・松崎地区内に一時避難所の整備検討等（事務局）	H29/7～H30/3
防災祭り開催検討	・地域の将来を担う子ども達向けに防災を中心とした祭りの開催を検討（松崎地区各成（青）年会組織等）	H29/7～H30/3

※防災頭巾作り 55 プロジェクト事業は、鳥取県の震災復興活動特別支援事業補助金申請（小規模活動支援）の採択を受け、事業を実施する予定。

- ・プロジェクト事務局設置：事務局長および、副事務局長（広報含む）を配置する。